



古野 槇一さん (25歳)

(営農地／福岡市西区今津)

農業は楽しい!

《就農のきっかけ》 叔父の影響

「私は今津という農村地帯で育ち、小さい頃から農家である母の実家の祖父母や叔父が活き活きと働く姿を見ていたことから、農業に対する関心は強いものがありました。」と語る古野さん。

高校卒業後、何か手に職を付けたいと、専門学校に進学しましたが、いろいろ迷った結果、卒業と同時に叔父のところで農業研修を始めました。

《これまでの過程》 周囲の助け

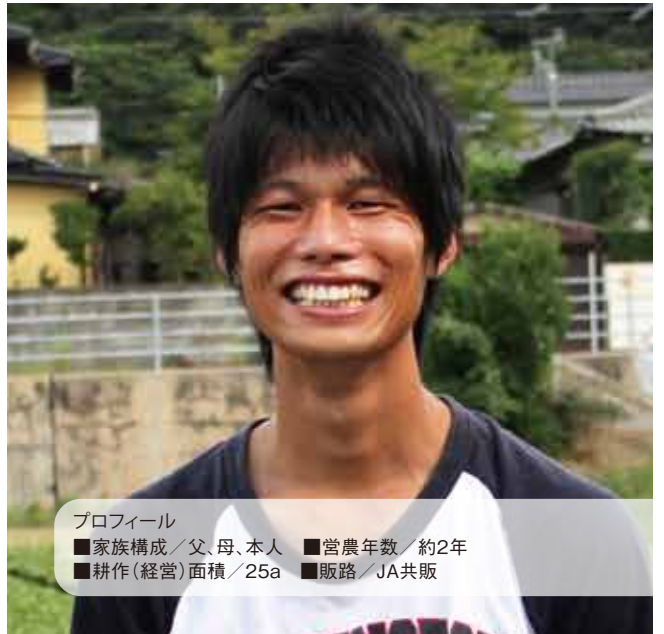
叔父が花を栽培しているその周りで多く作られていたイチゴを栽培することにした古野さんは、叔父さんから、ハウスの一部を借り、そこで、祖父や近所の方に習いながら、栽培技術を学びました。

そして翌年には、補助事業を活用してトラクターや冷蔵庫を導入し、15aから始めました。

一年目はとにかく忙しかったそうです。周りの方より早く段取りをつけて作業を始めても、終わるのは最後でした。飛んできた玉をただ打ち返すだけの状態でした。しかし、二年目は、それほど忙しくなく、それは、叔父さんを始め地域の先輩方から色々とお助けしてもらい何とか一年を乗り切れたことに自信を持ったことと、自分なりに仕事に対する心構えができ、体が思った以上に動くようになったからです。

また、農業経験20年以上のベテランの母親の力も大きかったそうです。バック詰めはまだしも、収穫に手間取ってしまうことが多く、母親からは「もう少しかんばってもらわないと!」と期待を込めた指導を受けました。

そのような周りの方々の厳しい指導を受けながら、今年は約10a面積を増やすということです。



プロフィール
■家族構成／父、母、本人 ■営農年数／約2年
■耕作(経営)面積／25a ■販路／JA共販

《これからの展望》 最後は地域に

まずは、量を増やし品質を向上させ、お客さんに喜んでもらえるイチゴ作りをしたいです。また、研修会や視察研修等にも積極的に参加し、栽培技術や経営管理能力の向上にも意欲的に取組んでいきたいと思っています。

「始めたばかりの者が言うのもおこがましいですが、この地域であったからこそ自分は就農できた」と思っています。将来は、この地域に何らかの形で貢献できるようになりたいと強く思っています。



Good 成功のためのポイント

まだまだ成功までは遠い道のりですが、自分は農地が決まっていたので、とにかくいろんな人から話を聞き情報を集めましたし、特に、農業をしている同級生や先輩等にも聞いて回りました。

また、農業体験を通し、自分に合った農業を見つけ、研修を受けた上で、計画を立て、何度も作業のシミュレーションをしました。

最も大切なのは、農業に対する「情熱」だと思います。本格的にイチゴ作りを初めて3年目ですが、つらいと思った事は一度もありません。作物が自分の頑張りに応えてくれると思うと、楽しく作業できました。